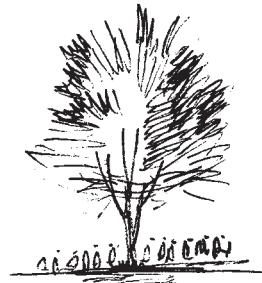


# 光の子



No.220 2025.12.20

●年間聖句 すべてを吟味し、良いものを大切にしなさい。(テサロニケ信徒への手紙I.5章21節)



「皆でつくるクリスマス」

表紙絵・中島 由起子

聖夜の星

黛 まどか

会釀して笑み返さるる小春かな

青空に雲打ちのべて秋水忌

鼻唄を母がつないで秋桜

逆上がりできて木の実をこぼしをり

ファニーツシュの氷を摺みスケーター

地下鉄を出でて聖夜の星浴びる

煙突の丈不揃ひにクリスマス

※「秋水忌」父で俳人の  
黛執の忌日です。

# 望みなき者を生かす神

元女子聖学院短期大学・聖学院大学教授 阿部 洋治

北海道の片田舎に生まれ育つた私が初めて聖書を手にしたのは中学3年生の時でした。きっかけは、小学5年生

の時、父が講読していた農業雑誌『家の光』の付録『子ども家の光』の欄に、「『子ども家の光』に音楽のページを作つてほしい」と投稿したことにありました。このことで本州の幾人かの人々から文通のお誘いの手紙が届きました。不思議なことに、高崎市の同学年の女性との文通が続くことになりました。この人は、中学3年生の頃、教会に行くようになりました。

私は、これをきっかけに、北海道ラジオ放送の日曜日朝のキリスト教番組「メノナイト・アワー」宛にハガキを書き新約聖書の贈呈を受けました。何となく恥ずかしい思いでマタイ福音書を読みました。いくつかの主イエスの言葉に線を引きましたが、もち

ろん信仰には至りませんでした。他方、高崎の女性は高校1年生の時にクリスチヤンになりました。

文通は、高校時代、途絶えましたが、高校の終わり頃どちらからともなく再び手紙を交わすことになりました。私は、国公立の大学受験に失敗し浪人は許されず、不本意ながら、合格していた国家公務員（税務職）の道を歩むことになりました。最初の1年は札幌国税局の税務大学校で研修。翌年3月末、東京国税局の厚木税務署所得税課勤務を命じられて上京。宿舎は小田急線参宮橋駅近くにあつた急線参宮橋駅近くにあつた1964年の東京オリンピック選手村宿舎でした。こうして小田急線の参宮橋と厚木の間を通勤することになりました。

そして、この年の5月5日、文通をしていた高崎の女性と小田急線参宮橋駅近くの喫茶店で初めて会うことにな

りました。不思議なことに、会話の中心は「伝道者になりたい」という彼女の志をめぐつてのことがありました。キリスト教に馴染みのない私でしたのが、二千年も昔のイエス・キリストという人の教えを宣べ伝えるために人生を獻げたいと言う彼女の思いに興味を覚え、これを契機に近くの教会を訪ねることになりました。

私がより一層深く信仰へと導かることになったきっかけは二つあります。その一つは、この年の秋、ウイークデイのある休日、教会を訪ねてオルガン練習をさせてもらいました。最初の1年は札幌国税局の税務大学校で研修。翌年3月末、東京国税局の厚木税務署所得税課勤務を命じられて上京。宿舎は小田急線参宮橋駅近くにあつた急線参宮橋駅近くにあつた1964年の東京オリンピック選手村宿舎でした。こうして小田急線の参宮橋と厚木の間を通勤することになりました。

それがどうしてであつたかは分かりません。練習を終えてから、私はこの思いを牧師にお話ししました。牧師は私のために祈り、最後に、「日毎の生活の中でお祈りするよう」と勧めてくれました。しかし、宿舎は3人相部屋でしたから声を出して祈るこ

## おんがくの集い

11月8日、地域でお世話になつておられる方々に感謝をお伝えする機会として、「おんがくの集い」を開催しました。昨年度に続き2回目の試みです。

演奏は、加須市観光大使の篠塚裕美子さんを擁し、これまで度々お世話になつてゐる「まりずむん」さん、大利根地域で演奏活動をされている「大利根太鼓」さんにお願いしました。大利根太鼓の演奏は、加須市観光大使の篠塚裕美子さんを擁し、これまで度々お世話になつてゐる「大利根太鼓」さんにお願いしました。



とはできません。考えた末、私は、就寝前に、宿舎のすぐ側の明治神宮の電灯の灯つている木陰で小さな声で初めて祈りました。「神様、私はまだあなたを信じることはできません。しかし、もしあなたが存在しておられるのなら、今日から祈ります。私を導いて下さい」と。

もう一つは、ある朝、この職員寮で聖書を読んでいた時のことです。私は、読んでいた聖書の言葉が自分に向けて語られていることに気づかされたのです。それまでは、聖書には何が書いてあるのかと、いう思いで読んでいるだけでした。ところが、この時、私は、聖書の言葉から、「あなたはどうなのか?」と問われていることに気づかされたのです。こうして、私は、聖書を神からの語りかけの言葉として読むことを教えられたのです。

こうした中で、私は、決断を促す一つの御言に直面させられたのです。それは、イエス・キリストが弟子たちに語られたマタイによる福音書8章34～36節の言葉でした。

34 わたしの後に従いたい者は、自分を捨て、自分の十字架を背負つて、わたしに従いなさい。<sup>35</sup>自分の命を救いたいと思う者は、それを失うが、わたしのため、また福音のために命を失う者は、それを救うのである。<sup>36</sup>人は、たとえ全世界を手に入れても、自分の命を失つたら、何の得があろうか。

私は、「自分を捨てよ」、「自分の十字架を背負え」との言葉に心を揺さぶられました。「自分を捨てる」——それは、大学受験に失敗し傷ついた自分を受け入れることであり、望みを叶えることができなかつた自分の無力さ、絶望せざるを得ない自己自身を容認することにほかなりません。しかし、イエス・キリストは、自己への絶望という十字架を背負う者に、「わたしに従いなさい」とお招き下さつたのです。イエス・キリストは、今も、絶望に突き当たる私たちを招いて下さり、私たちの思いと現実とを超えて生きる命を与えて下さるのであります。

## 光の子どもの家のクリスマス

光の子どもの家  
施設長 穴水祐介

主イエス・キリストの御降誕を心よりお祝い申し上げま

街中が華やかなイルミネーションに彩られるこの季節、光の子どもの家では、今年で40回目のクリスマスを迎えます。

今からおよそ2000年前、ユダヤの人々は、ローマ帝国の厳しい支配のもとで、自由も希望も見出せない暗闇の中にいました。そんな中、彼らは700年も前から預言

されていた救い主（メシア）の誕生を切に待ち望み続けていたのです。

强国の支配下で苦しめられて、いた暗い世の中に長い間待ち続けていた神様からのプレゼント「世の光」として御子イエス・キリストがお生まれになつた出来事、それがクリスマスです。

救い主であるイエス様が生

救い主であるイエス様が生

光の子どもの家には、それに大変な経験を乗り越えて、たどり着いた34名の子どもたちが生活しています。私たちは、このクリスマスという特別な時を通して、イエス様が一人ひとりの子どもたちを「希望の光」として照らし、かけがえのない存在として愛してくださつてのことと伝えたいと願っています。そして、私たちが出会えた

す。そのお方が、すべての人を愛で包み込み、すべての人の罪を赦すために、暗闇の中の希望の光としてこの世に降誕してくださいましたのです。子どもたちに伝えたい希望の光

光の子どもの家には、それに大変な経験を乗り越えて、たどり着いた34名の子どもたちが生活しています。私たちは、このクリスマスという特別な時を通して、イエス様が一人ひとりの子どもたちを「希望の光」として照らし、かけがえのない存在として愛してくださつていて、愛を伝えたいと願っています。そして、私たちが出会えた

こと、共に生きていることを喜び、感謝し合える温かなクリスマスにしたいと願っています。特別な気持ちになるこの季節だからこそ、子どもたちと職員との絆をより一層深めてまいります。

開設から40年間、私たちはクリスマスの本当の意味をお客様と分かち合うため、12月25日の夜にページェント（聖誕劇）を上演してきました。

日本では「ただ楽しい日」となりがちなクリスマスですが、劇を通して、ご家族、お友だち、先生方、地域の方々、支援者の皆様に、救い主の誕生というクリスマスの真の意味を伝えてきました。ページェントは、在籍するすべての子どもたちが何らかの役で舞台に立ち、職員も一体となつて創り上げる、大切な伝統です。

毎年12月になると配役が発表されます。夕食後から練習が始まります。はじめは、ふざけあつたり、声が小さかつたりとバラバラですが、回を重ねるごとに、子どもたちも感覚を取り戻していきます。そのうち施設のあちらこちら

からページェントの賛美歌が聞こえています。こうして、クリスマスを待つ豊かな雰囲気が出でています。

### ＜アドベント＞

キリスト教では、クリスマスまでの約4週間をアドベント（待降節）と呼び、この期間を色々な工夫をしながら楽しんでいます。そのひとつが、「影絵」です。

日が落ちてくると、光の子どもの家の正面入り口から見える三軒連なつた家のそれぞれの窓には障子に映し出されたイエス様の降誕をイメージした影絵が映しだされます。暗い園庭から見える部屋の柔らかい灯りに浮かぶ白と黒の世界は見事です。

この影絵は、クリスマスの25日間週を重ねることに増えています。第4週目になると天使、羊飼い、東方の三博士、マリア・ヨセフとみどりごイエス様の物語が完成します。

### ＜新しくなる＞

ここ数年、コロナ禍の中止、規模縮小、舞台から映像としてきましたが、今年は、早

い時期から影絵で聖誕劇を作つてみたいと、光の子どものものつくりの申し子である職員から申し出があり、これから若い力に引き継ぐためにも影絵による聖誕劇を上演することにしました。また、音楽の賜物をもつたクリスマス職員も加わり新しいページェントを作り始めてい

ます。また、全員参加のクリスマスをめざして、若い職員の方々にクリスマスカードや招待状、アドベントカレンダーなどの飾りを任せ楽しんで準備をしています。子どもたちをまきこんで素敵なクリスマスになることを祈っています。

この家で体験したクリスマスが、大人になつてからでも忘れることのできない「宝物」のようになります。



い出にできるよう、共に力をあわせます。

## 断章から終章へ

老健施設紅寿の里 施設長 仙道 富士郎

今回ほど原稿を書くのに時間がかかっていることは記憶にない。今書き始めたこの文章が、確かに4度目だと思う。認知能力の衰えに起因することは否めないが、それよりも、書こうとする内容の流れが止まらないことが大きな原因であるような気がしている。これからどう生きていくかが曖昧模糊としているから、何を他人に伝えたいかというポイントが見えてこない。

気を取り戻して書き始めたのは、「断章」という言葉に出会つたからである。この単語には種々の意味があるが、「一定の文脈の中で意味を作ることのない詩や文章の断片」と解した。思い起こしてみると、私の生き方には一定の指向性が見えず、連續性を失つた時と時が散在しているに過ぎなかつたことに気づいたのである。まさに断章の散らばりである。

東京で大学浪人をしているときに、街中で手渡された聖書の言葉に感激した。英語の勉強のために英日対訳の聖書を読むというのが、大学合格を唯一の価値としていた当時の自分が聖書を読む言い訳だつた記憶が残つているが、利他を主旨とし、脈々と謳いあげられた聖書の文脈は私を虜にした。日記に「貧しい人々、病める人々に捧げる心の成就に向かっていく道といふ」と書いた。縁（これは仏教の言葉であるが）であろうか、受験場で、フランス語の大学教師を辞して医師の道を目指している、5歳年長の熱心なクリスチヤンに出会い、彼から小さな聖書を頂いた。運よく2人とも北大医学部に合格した。本の名前もその内容も忘れてしまつたが、大学の図書館に内村鑑三の著書を見つけて、大学の講義に出席せずに、これを読んでいたりし

た。これからの記載は、大分前に「光の子」に書いたので、繰り返しになり申訳ないが、この稿のタイトルの「断章」の色合いの強い私の人生の1つの成り行きなので、申し述べみたい。

北大に入学したのは1958年で、まさに60年安保闘争が学生運動でも盛り上がりつあつた時ではある。私は北大合唱団を覗いて合格気分を味わつたりしたが、結局は、貧困者に対する社会活動を主旨とするセツルメント団体の1つに参加して、その中での活動が大学生活の主要な部分を占めるようになつていった。当時、セツルメントの中にはクリスチヤニティを旨とする団体もあつたが、私が参加したセツルメントを指導していた学生は、いわゆる左翼系の人たちだつた。自分ではクリスチヤンだと思つていた私が、何故に左翼系のサークルに入つたのか、いまだよく理解できていない。内村鑑三の著書に親しんだ自分はどうか。まさに断点としか言い

はない。不器用な私が社会運動の1つとして、農村の子ども達に見せる人形劇に使われる馬の縫いぐるみを懸命になつて作つたりしていた。ところが、1年もしないうちには思想を異にする、当時の全学連の運動に突入（この言葉が当時の私の活動を表現するのに最もふさわしいように思う）していった。

20歳そこそこの若年ゆえの事と言い訳はできるかもしないが、そのころからの60年間の生き方は、断章の散らばりの繰り返しでしかなかつたような気がしている。87歳の自分の年齢を考えると、このまま人生の終章を迎える可能性が高いが、それではあまりにも悔しいではないか。老健施設の職を辞さなければならぬことを総括しながら、その連續性の上に立つた人生の終章を迎えるべく生きていたいと思うが、日々、自分がしてきたことを迎えるべく生きていたい

# シクラメンの花

彫刻家 中島 瞳雄

「わが胸の燃ゆる思いを映す如く、乱れて咲けるシクラメンの花」

大分古い絵だが、久しぶりに引き出して見た。キヤンバスの裏を見てみたら、この歌が書いてあつた。これがちゃんと短歌になつてあるかどうかは分からなが。

そのシクラメンの絵を見て別の思い出にふけつた。

高校時代、同級生で景山君という友人がいた。彼はその後、長野県でキリスト教の布教活動に熱心だつたようであつた。

その彼が、久しぶりにこちらに帰るということだつたので、当時の私は筆を取り、シクラメンの花の絵を描いて彼にプレゼントした。

その後、彼は長野県へ帰つたのだが、間もなく彼からの手紙がきたのだ。手紙にはこう書いてあつた。

「年の瀬に 買い忘れたるシクラメン 君の筆に あざやかに咲く」

私はとても感動した。絵そのものは大したことはないのだが、彼のよこした歌がありにも素晴らしい。すつかり気に入つていて。今でも忘れない。

## 【vs 鮎、vs 世界】

心理室から  
中西 健吾

夏の酷暑も終わりに近づいた夕方、子どもを2人連れで、近所の小川に小鮎釣りに出かけました。餌は子どもたちが自ら土を掘り起こして見つけた数匹のミミズ。餌を針先に付けて水面に糸を垂らすと、すぐさま魚からの反応があります。2人とも見えない

う一方の子は全く釣れないのです。浮きは動いているのに、ボクだけ針に魚が掛からない。何度も何度も仕掛けを水に放つてきました。日が傾き、帰園の時間が来ても釣りを止めようとはせず、みんなで励まし「また行こうよ」と約束をしてやつと帰路に就きました。先日、僕も個人的にプライベートで釣りに行きました。帰省のついでにふらつと、2、3時間でも遊べればいいなど、軽い気持ちで。小川の鮎釣りよりはしつかりした裝備で、釣具屋で餌も購入しました。……釣れない。タナ（水中に垂らす糸の長さのことです）を変えても針を小さくしても釣れません。あと一投、あと一投、次こそは釣れると信じて投げ込み、気づいたら辺りはすっかり夜でした。釣果は6時間で少し型の良いハゼが1匹だけ。

僕もあの時の彼も世界の儘ならなさを知りました。そしてそのことに子どもも大人もムキになつてきました。なかなか上手くいかない世界に抗

おうと、僕らはまさしくあの瞬間生き生きと生きていました。

また、彼を誘い釣りに行こうと思います。小さな鮎を釣り上げるため、儘ならない世界の中でも自分に為せることはあるのだと確かめるために。

## サシバの里へ

9月23日、ご招待をいただき、栃木県芳賀郡市貝町にある「サシバの里自然学校」へ遊びに行きました。大きなハジブルランコや木製遊具、魚とりや流しそうめんと、厳しい残暑のなかでも楽しい一日を過ごしました。



## 「ずっと前から」



「成長と助け合い」  
三井 正俊

はたいから  
クリスマスおめでとうござ  
います！

今年度から地域小規模グル  
ープホーム“はたい”での働  
きとなりました。担当する男  
の子4人と一緒に引越ししてか  
らあつという間に時間が過ぎ  
てもうクリスマスです。新し  
い生活に慣れるまではしばら  
く大変でした。特に小学生の  
福と彬は転校もあつたのでス  
トレスも大きかつたと思いま  
す。それでもここまで他の職  
員と協力し子どもたちと助け  
合いながらみんなで頑張つて  
きました。

ある日の夕食後の出来事で  
す。職員は私だけでしたが体

調が優れなかつたので「30分  
だけ横にならせて」と子ども  
たちに伝えてリビングのソフ  
トで横になりました。する  
とすぐに4歳の重明が枕と毛  
布を持つてきて「ちゃんとね  
な」と毛布をかけてくれま  
す。中学2年の達也は食器を  
洗い始め食器拭きまでやつて  
くれます。小学5年の彬は洗  
濯機を回し乾燥機までやつて  
くれました。小学3年の福は  
「ミッキーはいま寝てるから  
静かにしようね」と言つて重  
明の面倒を見てくれていま  
した。そして最後は乾燥機が終  
わつた洗濯物をみんなで畳ん  
でくれたのです。

これからもいろんなことが  
あると思いますが子どもたち  
と助け合いながら共に成長し  
続けていきたいと思います。  
クリスマスの祝福が皆様の  
上に豊かにありますようにお  
祈り申し上げます。

「子どもたちは天使」とは  
とても言えませんが、ある意  
味、サンタクロースであると  
は言えるかも知れません。子  
どもたちがプレゼントしてく  
れるものは、時にすぐに幸せ  
と見えないものもあります  
が、必ず、私にとつてプラス  
になるものです。そう信じら  
れることも幸せなことだと思  
います。

## 「子どもサンタ」

原田家から

岩崎 まり子

「羊子、昨日何か言つて  
た？」

「言つてた。何かごによごに  
よ言つて、途中で『こつちの  
方にする?』とか言つてた」

「えー、全然覚えていな  
い」

「ねえ、花梨は?花梨は何か



皆さまもどうぞ良いクリス  
マスを……

「花梨ちゃんはね、いつも通  
りブンブンつてやつてたよ」

「えー、やだあ」

「言つてた?」

「花梨ちゃんはね、いつも通  
りブンブンつてやつてたよ」

振込用紙を使ってお申し込みになる際は、下記の3つよりお選びください。  
振込先は本誌10ページ下段にございます。

**施設改築のために**

**子どもたちの自立・進学のために**

子どもたちが、卒園後の生活に希望をもてるよう応援します。高校卒業後の専門学校、大学進学にあたり、できるだけ経済的負担を軽くできるように。日常生活の中でも、経済感覚を含め、卒園後の生活がイメージできるような取り組みをさらに進めています。

**子どもたちの暮らしのため**

用途を上記2点に限定しない場合には、こちらの項目をチェックしてください。

銀行等のATMからのお振込も可能です。用途をご指定になる場合は、別途ご連絡ください。

皆さまのご健康が守られクリスマスの祝福が豊かにありますようにお祈りします。

社会福祉法人 光の子どもの家 理事長 大高晉一郎  
光の子どもの家を支える会 代表 永野 三恵

## 寄付金受領感謝報告

2024年度に受領いたしました「光の子どもの家を支える会」への寄付金は

**1,051万6,760円**

でした。

今まで、ご寄付くださった方々、団体等のお名前を掲載させていただきましたが、今後はこのような形で感謝のご報告を掲載させていただくこととなりました。

皆さまからの篤いご支援と励まし、そしてお祈りに、心より感謝申し上げます。

社会福祉法人 光の子どもの家 理事長 大高晉一郎  
光の子どもの家を支える会 代表 永野 三恵

# 子どもたちのかがやきとともに

## —光の子どもの家をお支えください—

世界中の人々が平和と平安の1年を望んでおりましたのに、2025年はむしろ歎きと苦しみと心配の多い1年となりました。ロシアのウクライナ侵攻を発端に戦闘状態は今なお続いている。さらにパレスチナ問題は多くの子ども達や市民が犠牲になり目を覆うばかりです。また自然災害、気候変動問題、食料問題、貧困など、地球のうめき声が聞こえています。子ども達が引き継ぐ世界は、いったいどうなってしまうだろう……と心痛むばかりです。1日も早く個人や自国の利害ではなく大きな地球規模の観点に立ち地球の仲間としてこの世界に平和が訪れますよう祈るばかりです。

その様な状況の中でも、私たちの毎日の暮らしは続いています。

ここ「光の子どもの家」では幸いなことに、今年度も子どもたちの笑顔やエネルギー、職員1人1人の細やかな配慮や忍耐強いチームワークに支えられました。

5月には子どもまつりも開かれ、お友達や卒園生が家族連れて集い笑顔がいっぱいの楽しい時を持つ事が出来ました。さらに秋には幼稚園、小・中学校では運動会が開かれ秋晴れの下に力いっぱい走り燃え、喜びに1日を過ごしました。

こうして、また1年が終わろうとしています。

皆さまと直接交流できる機会がありませんでしたので、この場をお借りしてご報告いたします。

現在、幼児5名、小学生14名、中学生10名、高校生5名の計34名が本体施設3軒、分園2軒の計5軒で暮らしております。来年3月には2名の若者たちがそれぞれの道に進みます。「光の子どもの家」で多くの愛情に包まれ生活してきた彼らも、社会の厳しさに触れ戸惑い悩むことが多くなります。そのアフターケアに心を配らなくてはなりません。

設立理念である「子どものための子どもの施設」を大切に、可能な限り「家庭的」であることを目指してこの地で40年の歩みを続けてまいりました。その歩みには一言では言い表すことの出来ない葛藤や悩みもありましたが、それにも勝る喜びや感謝がありました。その1年1年の積み重ねが、現在の暮らしを造っております。

地域のボランティアの方々、キリスト教主義の学校、多くの教会など個人・団体の直接的な支えのみならず、お祈りに支えられここまで歩んでくることが出来ました。

改めて皆さま方のお寄せ下さる援助に感謝申し上げます。どうぞ今後も変わりないお支えをお願い申し上げます。

私たちを取り巻く社会情勢の厳しさは増しております。その中にあって「光の子どもの家」が、ますます神さまの愛の内におかれ守り導かれますよう祈り願います。

あなたがたは、以前には暗闇でしたが、今は主に結ばれて、光となっています。

光の子として歩みなさい。 (エフェソの信徒への手紙 5:8)

皆さまのご健康が守られクリスマスの祝福が豊かにありますように。

【12月1日の在籍児童数】	
幼稚園5名	小学生14名
中学生10名	高校生5名
計34名	

2025年9月～  
2025年11月

## 日誌抄

2025年9月～  
2025年11月設内で感染が広がることも  
なかつた。

【9月】	
6日	第三者委員会との座談会
8日	平本議理事による施設内研修
19日	パントリーパンシバの里→6ページに記載
23日	サシバの里→6ページ

【10月】

4日	ご招待でサッカー浦和レッズ観戦へ
11日	第1回ポートレート撮影
19日	東大宮教会幼少科秋の子ども会、教会へ
20日	ポートレート撮影
27日	原道小運動会振休でみかも山公園へ

## 【実習受入】

秋草学園短期大学2名、埼玉純真短期大学2名、埼

【委員会等の動き】	
クリスマス	今年度の計画を検討→4ページ参照
交換研修	藤村が「あいの実」へ、佐藤が「嵐山学園」へ、それぞれ3日間
里親支援専門相談員	他施設の里専と共に各地域のイベントで広報活動に参加
玉	近藤みちる「共育ちカンガルーデイ記」は休載です。

【11月】	
6日	嘱託医の南條医師（鷺宮・高橋医院）に出張していただき、インフルエンザ予防接種
8日	おんがくの集い→2ページに記事
17日	子どもたちの通う学校でインフルエンザが流行、学年閉鎖も。
22日	法人理事会・評議員会

【寄贈】（敬称略）

餡乃雲、大塚勉、木田浩、黒川努、鈴木圭介、鈴木智・裕子、（有）カザマ、古河農友会、すくすく広場、Gモップ、レシヤス（株）、（株）ティ・エスロジスティクス、鳥海エステート、（株）なとり、ハートリボン協会、（株）フレーベル館

根本勝美、長谷川雅之、山田史乃、竹花信恵、竹林勝子、根本勝美、長谷川雅之、山田智・裕子、（有）カザマ、古河農友会、すくすく広場、Gモップ、レシヤス（株）、（株）ティ・エスロジスティクス、鳥海エステート、（株）なとり、ハートリボン協会、（株）フレーベル館

他多数の皆様

インスタ  
日誌抄

@HIKARINOKODOMONOIE

## 【休載のお知らせ】

近藤みちる「共育ちカンガルーデイ記」は休載です。

他多数の皆様

○ゆうちょ銀行	【郵便振替】00130-1-128022
	【他銀行からの場合】ゆうちょ銀行（金融機関コード：9900）019店（当座）0128022
○埼玉りそな銀行	鷺宮支店（普通）0124343
	フク）ヒカリノコドモノイエ

○物品の寄贈は事前にお問い合わせください